

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第2部門第4区分  
 【発行日】平成30年2月8日(2018.2.8)

【公開番号】特開2016-221848(P2016-221848A)  
 【公開日】平成28年12月28日(2016.12.28)  
 【年通号数】公開・登録公報2016-070  
 【出願番号】特願2015-110807(P2015-110807)  
 【国際特許分類】

**B 4 1 J 2/175 (2006.01)**

【F I】

B 4 1 J 2/175 3 0 9

B 4 1 J 2/175 3 0 1

B 4 1 J 2/175 1 1 9

B 4 1 J 2/175 1 2 1

B 4 1 J 2/175 1 1 5

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月19日(2017.12.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

記録ユニット5は、記録ヘッド10と、キャリッジ130と、駆動機構50とを備える。記録ヘッド10は搬送ユニット3により搬送される記録媒体上にインクを吐出して画像を形成する。記録ヘッド10はキャリッジ130に搭載されている。駆動機構50はキャリッジ130を主走査方向に往復移動させる機構である。本実施形態の場合、駆動機構50は、主走査方向に延設されたガイドレール131と、ベルト伝動機構132とを備える。ガイドレール131は、キャリッジ130と係合してキャリッジ130の主走査方向の移動を案内する。ベルト伝動機構132は、主走査方向に走行する無端ベルトを備え、この無端ベルトの一部がキャリッジ130に固定されている。ベルト伝動機構132は不図示のキャリッジモータを備え、キャリッジモータの駆動力により無端ベルトを走行させてキャリッジ130が移動する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

側壁121～124のうち、側壁121と側壁122とは互いに向かい合っており、側壁121は一方端部12a側(連通部310側)に位置し、側壁122は他方端部12b側(連通部320側)に位置している。側壁121と側壁122とは、一方の連通部側から他方の連通部側へインクが流れる流路を形成している。本実施形態の場合、側壁121と側壁122とは、連通部310側から連通部320側へインクが流れる直線状の流路を形成するように互いに向かい合って配置されている。側壁123と側壁124とは、側壁121と側壁122との間で一方端部12a側(連通部310側)から他方端部12b側(連通部320側)へ延設されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

メインタンク11のインクが無くなると、貯留室Sのインク液面高さhは高さH1から徐々に低下する。その際、連通部310からは空気が取り込まれるが、インク供給路内に残存したインクが気泡となって空気と共に貯留室S内に流入する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

本実施形態の場合、更に、部分空間S21と部分空間S22との境界には角部C2、C4が存在する。角部C1、C3の場合と同様に、角部C2、C4においても気泡が留まろうとし、側壁123、124から剥離し辛くなる。なお、角部C1、C2の角度を図7(A)の1、2のように規定すると、

$0^\circ < \theta_1 < 90^\circ$

$0^\circ < \theta_2 < 90^\circ$

とすることができる。角部C3、C4も角部C1、C2と同様である。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

第一実施形態では、図7(A)の1、2の例として、 $0^\circ < \theta_1 < 90^\circ$ 、 $0^\circ < \theta_2 < 90^\circ$ を例示したが、 $\theta_1$ 及び $\theta_2$ が $90^\circ$ の場合図10(A)に示す。同図の例では、空間S2が部分空間S21、S22に区分けされない構成となっている。この構成の場合も、空間S2への気泡の移動阻止効果が得られる。図10(A)の例に限られないが、電極330の位置が一方端部12b側であればあるほど、気泡との接触防止効果が向上する。図10(A)の例の場合、空間S2のうち、例えば、長手方向半分の位置よりも一方端部12b側に電極330が位置すると、気泡との接触防止効果が向上すると考えられる。